

聖母の被昇天

福音朗読 ルカ 1・39-56

2023.8.15 18:30 ミサ

カトリック高円寺教会

主任司祭 高木健次神父

先程、ミサに先立って聖体賛美式の中で 1981 年に来日されました教皇ヨハネ・パウロ二世の[広島平和アピール](#)を朗読いたしました。その中で、教皇様は、平和を記念するということは、人間は戦争もできるが、平和を打ち立てることもできるということを思い起こす機会であるとおっしゃっていました。人間への信頼の回復、人間が良いことができるのだ、正義を選択することができる、そういうことを改めて思い起こさなければならないという呼び掛けられました。

教皇様の言葉を一部もう一度朗読いたしますと、『「戦争は不可避なものでも必然でもない」ということをわれわれは自らに言い聞かせ、繰り返し考えてゆかねばなりません。人類は、自己破壊という運命のもとにあるものではありません』、このようにおっしゃっているわけですが、今日わたしたちがお捧げしているこの聖母被昇天の祭日にも、この教皇様のメッセージに籠められた思いと同じ思いが実は根底にあるとすることができます。

マリア様がこの地上の生涯を終えられたことを 8 月 15 日に記念するということは、非常に古い教会の伝統だと言われています。「毎日のミサ」の説明によれば既に 8 世紀頃には「聖母被昇天」、マリア様はこの地上の生活を終えられたあとはイエス様のように魂も肉体も直通で天の栄光に上げられたという信仰は信者の中で定着していて、この日を聖母被昇天としてお祝いするという習慣はずうっとあったんです。それがために、今日 8 月 15 日は、わたしたち日本人にとっては戦争のことを忘れず、また平和をこれからも求め続ける、そういうことを祈願する終戦の日ではありますが、さらに、わたしたち日本の信者にとっても特別な意味があります。この 8 月 15 日に、フランシスコ・ザビエルはこの日に、新しく宣教するこの日本という所がマリア様の御保護の上にありますようにという思いで、この日に（それまで船で待っていたか知りませんが）鹿児島に上陸したわけです。だから、8 月 15 日はわたしたち日本のカトリック信者にとってキリスト教が伝えられた日でもある。

そういうわけですが、それはさておいて、そういう古い伝統のある聖母被昇天ですが、マリア様が直通で天国に上げられました」ということを教

義として宣言したのは 20 世紀になってから、教皇ピオ十二世というかたが 1950 年に宣言されたわけです。それは、たまたまその時に聖母被昇天の教義についての議論が煮詰まって、ここで宣言してもいいでしょうと、何百年かの議論がようやくここで結実した、というよりも、その時の教皇ピオ十二世が、やっぱり人類に対してこの教義を宣言することで伝えたかったメッセージがその背景にはあるというふうに神学校で習ったことがあります。

それが、まさにヨハネ・パウロ二世が広島平和メッセージの中でもおっしゃっていた、「戦争は不可避なものでも必然でもない。人間は自己破壊という運命のもとにあるのではない」ということなんです。第二次世界大戦が終わったあと、そしてまた冷戦が始まり人類が核兵器というものを持ってしまったというその 1950 年の時代の背景の中で、「でも人間は本来はマリア様のように救いへと運命付けられている。神様はマリア様のようにわたしたち人類を天の栄光に挙げるためにお造りになった。人間の未来というのは核戦争とか、自分たちの中にある悪によって決定付けられてはならない。神様の恵みのうちに天の栄光、そして地においては平和を実現する、そういう存在なのだ」というふうに人々を励ます、そういう思いで 1950 年にこの聖母被昇天を教義として宣言されたと聞きました。

わたしたちもこの日にマリア様の姿を仰ぎ見ながら、一人ひとりが神様に呼ばれて、身近な所、また社会においても平和を実現するための神の民に呼ばれているという思いを新たにしたいと思います。そのために、一人ひとりがイエス様に呼ばれたキリスト者としての道を歩むために、絶えずマリア様に祈る、その繋がりの中で生きるということが大事です。

歴史の中で、「マリア様にお祈りしなくていい」と言った聖人は誰もいないわけです。聖人たちはみんなマリア様にお祈りし、そしてその恵みを体験しながら、また他の人にもおんなじように「マリア様にお祈りすれば、自分の中に新しい力をいただくんですよ」と伝えてきたわけです。勿論、「お祈りしなくていい」と言う人は教会が聖人とは宣言しないからいないのは当然かもしれませんが。わたしたちもマリア様と共に一人ひとりの信仰生活を歩む、その思いを新たにしたいと思います。恵みの御保護に委ねて、身近なところで今何ができるのか、その瞬間にどのような思いを持つことができるのかということも導いていただきながら、キリスト者としての歩みが続けていく、その思いを新たに、聖母の取り次ぎのうちにこのごミサの恵みをいただきましょう。

参考：

教皇ヨハネ・パウロ二世 広島「平和アピール」

<https://www.cbcj.catholic.jp/1981/02/25/3446/>

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>